

## 教育学部 FD 活動報告会に参加して

教育学部 FD 活動報告会（平成 30 年 2 月 7 日（水）1 限「教職教養課題特講」）に参加して  
テーマ「学部教育における地域との連携の方法や、教員養成への成果と課題について学ぶ」

家政教育・眞鍋 郁代

### 1. はじめに

平成 30 年 2 月 7 日（水）1 限「教職教養課題特講」(鴛原先生)において、愛大教育改革 GP・教育学部 FD などにより実施された、取り組みについての報告会に参加をさせていただいた。

昨年度と今年度の 2 年間にわたり、「愛媛で教員になるモチベーションを高める教育内容・方法の充実」という取り組みについて、詳細にわたり、お話をうかがうことができた。

### 2. 取り組みについて

今回のプログラムを実施することになった背景として、愛媛県の教員採用状況が、今後しばらく、門戸が開かれている状況であり、積極的に挑戦する好機であるが、その反面、ミッションの再定義での目標数値をクリアすることのむずかしさもさることながら、教育学部で学ぶ学生が、教職の大切さの理解がすすむにつれ、また教育実習が近づくにつれ、教職に対しておそれを抱くものが一定数いることから、そのような「真面目な」学生の不安を少しでも取り除き、愛媛県をはじめとして教員になりたいというモチベーションを維持し、高めていくことを目的としている。

①教育の原点がある②愛媛県の小・中学校大部分は小規模校③小規模校の教師とふれあうことで、教職全般のことが必然的に習得できる、といった位置づけを定め、なかなか訪れることができないような島しょ部・小規模校へ行き、学生にとって知らなかったであろう学校の世界を見ることができるようになるように、この取り組みがなされた。

11 月、1 月に実施された小規模校への訪問（実施内容の詳細）や、訪問終了後アンケートによる、参加学生のこの取り組み参加の満足度や、教員を志望するモチベーションの変化についてなどの報告がなされた。

3. 重要である・参考になると感じた点や、自らの授業改善の課題・方策・計画について

今回のテーマ「学部教育における地域との連携の方法や、教員養成への成果と課題について学ぶ」において、印象深かったことは、この取り組みにおいて、地域に根差した教育を学生に知ってもらう、または実際に訪問して、その実践に参加したことで得ることができた具体的な経験などの心温まるエピソードもさることながら、取り組みを実施するにあたり、必要不可欠となる「経費」問題について、この授業を履修している学生たちと一緒に、思いのほか率直なお話を聞くことができたことであった。

この取り組みを運営していくにあたって、愛媛大学 GP への応募と補助金を獲得し、さらに、愛媛大学地域キャリア形成センターが募集していたバス運行支援などへの応募、補助金を獲得して、僻地である島しょ部、小規模校へのバス代（交通費）をねん出し、マネジメントしているという事実だけではなく、世の中において、お金（補助金等）を受けることができたプロジェクトは、受けた分だけの成果を残さないといけない社会をわれわれ（と、これから生きる学生たち）は生きているのであるといった学生への教示など、私が背筋が伸びる思いだった。

教職への理解がすすむにつれ、教職におそれを抱くものが一定数いることは、私も肌で感じているところである。教育学部にとって「愛媛県の採用試験を目指して突破することは、すなわち地域で活躍する人材を育成することと全く同じことで、COC+の趣旨にも合致する」ことを意識しながら、「真面目であるがゆえに」学生が抱えがちな不安を、すこしでも低減するような声掛け、指導、体験学習について、できることから実施していきたいと考えている。